

雜 録

◎英國第三回産業國勢調査 (3月7日, 同14日, 同19日, 同26日, 4月4日, 同9日附, 在リヴァプール帝國領事館事務代理佐々成好報告) 鐵工業—綿業—製靴業—談談業—ペンキ—繪具及ニス製造業—製穀業—糖業—酒精釀造業—酒精、混成、變性酒精製業—煙草業—炭坑業—コークス及副産物製造業—鐵道貨車及客車製造業—自動車、自動自轉車、自轉車及飛行機製造業—植物性油製造業—グリッソ、石鹼及蠟燭等製造業—造船業—セメント業—刷毛類製造業—椰子皮纖維、馬毛及羽毛業—金屬線製造業—マツチ業—紙箱製造業

商務院は第三回(1924年)英國産業國勢調査(第一回1907年、第二回、1912年)の結果を、2月24日以降毎週の“The Board of Trade journal”に豫備報告として發表しつつあるが、今日迄發表された内から、不取敢主要な點を抜き書きして見ると、大體左の通りである。但し本報告は大不列顛國內のもののみであつて、北部愛蘭の分は含まれて居ない。

鐵工業 (イ)鉄鐵 第一回調査との比較生産高

	數量 (噸)	價額 (磅)
1924年	7,345,000	35,041,000
1907年	10,114,000	33,304,000

右1924年鉄鐵生産高に、同年に於ける鉄鐵の副産物1,348,000磅を合算すると、共生産總高は36,389,000 磅に達して居るが、此内31,217,000 磅は使用原料價及生産諸雜費と見積られて居るが故に、差引實際の純生産高は5,172,000 磅である。而して本業上の平均就業者數は26,843人(職工25,209人(其他支配者、技術者、書記等) 1,634人と計上されて居るので、1人當りの純生産高は193 磅に當つて居る。

(ロ)鐵及鋼鐵 第一回調査との比較生産高

生産高 主要生産品	1924年		1907年	
	數量(噸)	價額(磅)	數量(噸)	價額(磅)
(1) 鋼 鐵 塊 及 錠 條 及 竿 シートバー及テイ ンプレートバー 其 他 鍛又は鑄たるもの ビーム、ジョイ スト、ピラー等	1,427,500	13,795,000	636,000	4,054,000
(2) 鐵 條 及 竿 鑄たる粗鐵 其 他	350,200	4,465,000	827,000	6,148,000
	482,900	8,459,000	924,000	7,379,000
	5,200	70,000	95,000	684,000

(3) 鐵 及 鋼 鐵

鐵道用レール	604,500	5,258,000	777,000	4,655,000
其他の鐵道用材	408,700	7,301,000	488,000	5,221,000
フープ及ストリップ	414,700	4,826,000	389,000	3,034,000
筒及管(鑄たるもの)	414,300	4,340,000	331,000	1,920,000
板(亜鉛及錫鍍せざるもの)	1,792,600	22,154,000	1,579,000	13,291,000
同(亜鉛鍍せるもの)	696,300	13,682,000	297,000	3,991,000
(4) 其 他	—	24,861,000	—	11,765,000
總 計	—	149,622,000	—	80,583,000

右表の通り1924年の生産總高は149,622,000磅に達して居るが、内105,447,000磅は使用原料價乃至生産諸雜費と見積られて居るので、差引44,175,000磅が純生産高である。而して本業上に於ける平均就業者數は218,310人、(職工200,181人其他18,129人)と計上されて居るので、1人當りの純生産高は202磅と云ふ勘定になる。

(ハ)鐵及鋼鐵チューブ(但し鑄ざるもの)第一回調査との比較生産高

	1924年		1907年	
	數量(噸)	價額(磅)	數量(噸)	價額(磅)
鐵及鋼鐵筒又は管	413,873	12,320,000	300,000	6,040,000
層 及 其 他	—	1,126,000	—	508,000
計	—	13,446,000	—	6,548,000

右1924年生産總高13,446,000磅中、8,201,000磅は使用原料價乃至生産諸雜費と見積られて居るので、差引實際の純生産高と見られるのは、5,245,000磅である。尙1924年本業上の就業者數は1907年の20,223人に比し24,275人(職工21,386人其他2,889人を算して居るので1人當りの純生産高は1907年の108磅に比較し、1924年は216磅に當つて居る。

(ニ)葉鐵 第一回調査との比較生産高

	1924年		1907年	
	數量(噸)	價額(磅)	數量(噸)	價額(磅)
ティンプレート(チェーンプレート及ト及シート(ターシートを含む))	779,000	18,937,000	529,000	7,402,000
其他層物及副産物	—	862,000	—	422,000
以 上 計	—	19,799,000	—	7,824,000
ブラックシート	164,000	2,740,000	143,000	1,343,000
總 計	—	22,539,000	—	9,167,000

1924年度生産總高は22,539,000磅を計上して居るが、内16,185,000磅は使用原料價乃至生産諸費用と見積られて居るので、結局純生産高と見られるのは6,354,000磅である。而して1924年本業上の就業者平均數は1907年の20,628人(賃銀職工20,059人、其他569人)に比し28,024人(職工27,154人其他870人)を算して居るので、其1人當りの純生産高は1907年の97磅に比して、1924年は227磅に該當して居る。

綿業 第一回調査との比較生産高

生産高	1924年		1907年	
	數量	價額 (但賣値)	數量	價額 (但賣値)
紡績業	(千封度)	(千磅)	(千封度)	(千磅)
絲	1,510,509	186,102	不詳	不詳
委託による製絲	10,280	524	〃	〃
屑	235,046	5,517	〃	〃
其他	—	1,694	〃	〃
計	—	193,867	〃	〃
織布業	(千平方碼)	(千磅)	(千碼)	(千磅)
布	5,799,259	56,344	7,019,729	81,313
委託による製布	44,232	368	56,474	265
其他	—	12,543	—	9,751
計	—	169,255	—	91,329
總計	—	363,122	—	—

尙繰業職工數純生産高及職工1人當りの生産高に付て見ると左の通りである

	職工數		純生産高		職工1人當りの生産高	
	1924年 (人)	1907年 (人)	1924年 (千磅)	1907年 (千磅)	1924年 (磅)	1907年 (磅)
紡績業	238,438	不詳	46,763	不詳	190	不詳
織布業	263,383	〃	35,617	〃	131	〃
計	517,232	572,063 (621,516)	82,380	45,007 (50,50)	159	79 (81)

(註)は括弧内の數字は1912年の調査。

製靴業 第一回調査との比較生産高

	1924年		1907年	
	數量 (千打)	價額(賣値) (千磅)	數量 (千打)	價額(賣値) (千磅)
靴及スリッパ	9,788	47,427	8,120	19,874
同部分品及修繕料	—	7,957	—	2,873
計	—	55,384	—	22,747

右表の如く1924年の生産總高は55,384,000磅を示して居るが、内30,349,000磅は使用原料價乃至生産諸費用と見積られて居るので、此額を差引いた25,035,000磅が純生産高と見られる。而して本業上の平均就業者數は1907年は124,800人(賃銀職工115,723人、其他9,077人で、1924年は147,300人(職工130,674人、其他16,626人)と算出されて居るから、1人當りの純生産高は1907年は71磅で、1924年は170磅に相當して居る。

護謨業 1924年護謨産業上に於ける各種製品の總生産高は23,309,000磅と算出されて居るが、之を1907年調査の分に比較すると、14,401,000磅の生産増加を示して居る。

尤も1924年生産高中11,806,000磅は原料買入代又は生産諸費用と見積られて居るので、實際の純生産高と見らるべき額は11,503,000磅である。而して此生産上に使用された平均人數は1907年の24,039人(賃銀職工21,556人、其他2,483人)に比して、1924年は46,565人(職工39,350人、其他7,215人)を示して

居る。従て1人當りの純生産高は1907年の124磅に比して、1924年は247磅と見られる。

尙爲念1924年に於ける主なる護謨製品別生産高を價額で示して見ると、左の通りである。

シート及スレッド	907,000磅	固形タイヤ	1,218,000磅
ホース	720,000	機械用ベルト	2,404,000
機械用パイプ及チューブ	1,043,000	防雨布の類	568,000
護謨靴及同部分品	2,063,000	遊戯用各種のボール	1,056,000
空気入用タイヤ及チューブ		ゴム玩具	45,000
自動車用タイヤ	4,913,000	其他の護謨製品	3,229,000
自動自轉車用タイヤ	616,000	製品修繕料及委託による製品	514,000
自轉車用タイヤ	1,231,000	計	23,309,000
右諸車用チューブ	2,873		

ペンキ、繪具及ニス製造業 1924年に於ける生産總高(賣値)は、1907年の8,562,000磅に比し、17,062,000磅を示して居るが、内7,739,000磅は使用原料の買入代乃至生産諸雜費と見積られて居るので、差引9,323,000磅が純生産高と見られる。而して本業上に於ける平均就業者の數は、1907年の13,840人(職工10,574人、其他3,266人)に比し、1924年は18,761人(職工12,691人、其他6,070人)と算定されて居るので、1人當りの純生産高は1907年の198磅に比し、1924年は413磅に該當して居る。(以上3月7日附)

製穀業 第一回調査との比較生産高

	1924年		1907年	
	數量(噸)	價額(磅)	數量(噸)	價額(磅)
小麥製品				
碾割及粉	4,135,748	82,355,000	3,714,450	48,087,000
糟粕	1,775,701		1,774,700	
燕麥製品(糟粕を含む)	142,406	1,870,000	100,250	981,000
大麥碾割及粉	303,965	3,490,000	303,150	6,317,000
玉蜀製品	360,241	4,399,000	458,200	
其他(米を除く)の碾割及粉	66,801	911,000	83,900	
其他	—	8,454,000	—	2,751,000
計	—	101,479,000	—	58,136,000

1924年度生産總高は101,479,000磅を示して居るが、此の内89,716,000磅は使用原料價等と見積られて居るので、差引純生産高と見られるのは11,763,000磅である。而して本生産上の平均使用者數は、1907年度の31,502人(賃銀職工25,175人、其他(支配者及技術者等)6,327,000人に比し、1924年度は34,520人(職工26,501人、其他8,019人)と算出されて居るので、1人當りの純生産高は、1907年度の178磅に比し、1924年度は341磅に當つて居る。

糖業 第一回調査との比較生産高

	1924年		1907年	
	數量(噸)	價額(磅)	數量(噸)	價額(磅)
砂糖	19,785,000	44,454,000	11,300,000	8,995,000
葡萄糖(グルコース)	1,713,000	2,393,000	1,229,000	687,000

糖蜜及轉糖等	3,502,000	4,983,000	3,310,000	1,927,000
其 他	—	1,339,000	—	706,000
計	—	53,174,000	—	12,315,000

1924年度生産總高は、以表の通り 53,174,000 磅と計上されて居るが、此内から使用原料價等を差引いた19,923,000磅が純生産高と見積られて居る。而して本業上の平均就業者の数は、1907年度の6,501人(賃銀職工5,836人、其他665人に比し、1924年度は12,626人(職工11,356人、其他1,270人)を示して居るので、1人當りの純生産高は1907年度の506磅に比し、1924年度は1,578 磅に當つて居る(但し税を含む)。

因に1924年度に於ける精糖の生産高は、1907年度に比し75%増、尙葡萄糖は40%の増加を示して居る。

酒精醸造業 第一回調査との比較生産高

	1924年		1907年	
	數量 (ブルーフガロン)	價額(磅)	數量 (ブルーフガロン)	價額(磅)
酒 精 (生)	34,194,000	5,510,000	36,057,000	2,655,000
變性酒精	1,733,000	126,000	1,028,000	54,000
醱母、糟 其他	—	1,489,000	—	708,000
計	—	7,125,000	—	3,417,000

1924年度生産總高は7,125,000磅と計上されて居るが、内4,550,000磅は使用原料價等と見積られて居るので、純生産高としては之を差引いた、2,575,000磅と見られる。而して本業上の平均就業者数は、1907年度にあつては 4,102人(賃銀職人3,573人、其他529人)、1924年度にあつては 4,622人(職工4,022人、其他600人)と云ふ數字を示して居るので、1人當りの純生産高は、1907年度の236 磅に比し、1924年度は557磅と云ふ勘定になる。

酒精混成變性酒精製業 第一回調査との比較生産高

	1924年		1907年(愛蘭を含む)	
	數量 (ブルーフガロン)	價額(磅)	數量 (ブルーフガロン)	價額(磅)
變性酒精	5,463,000	499,000	5,675,000	270,000
ブリテイッシュ及アイ リッシュスピリット (リキユー其他酒 精混成物を含む)	2,118,000	5,987,000	5,903,000	3,685,000
ワイン及其他	—	111,000	—	72,000
計	—	6,597,000	—	4,017,000

1924年度生産總高6,597,000磅中、使用原料價等を差引いたもの、即ち純生産高と見られるものは、1,000,000磅と見積られて居る。而して本業上の平均就業者数は、1907年度(愛蘭を含む)の 1,135 人に比して、1924年度は952人を示して居るので、1人當りの純生産高は1907年度の354磅に比し、1924年度は932磅に當つて居る(消費税を含まず)。

煙草業 第一回調査との比較生産高

	1924年		1907年(愛蘭を含む)	
	數量(所)	價額(磅)	數量(所)	價額(磅)
葉卷煙草	12,800	1,585,000	33,300	1,602,000
紙卷煙草	823,200	62,981,000	267,200	8,195,000
刻煙草	463,900	27,319,000	627,500	12,987,000
卷煙草及板煙草	36,500	1,257,000	42,000	668,000
其他	—	99,000	—	418,000
計	—	93,241,000	—	23,870,000

1924年度生産總高は93,241,000磅を計上して居るが、内69,299,000磅は使用原料價等と見積られて居るので、此差引 23,942,000 磅が純生産高と見られる。而して本産業上に於ける平均就業者の数は、1907年度(愛蘭を含む)にあつては 37,648人(賃銀職工33,880人、其他 3,768人)で、1924年度にあつては 38,802人(職工34,219人、其他4,583人)を示して居るので、1人當り純生産高と思はれるのは、1907年度の155磅に比し、1924年度は617磅である。(以上3月14日附)

炭坑業 第一回調査との比較採炭高

種別	1924年		1907年	
	數量 (千噸)	價額(買値) (千磅)	數量 (千噸)	價額(買値) (千磅)
無煙炭	5,569	7,554	3,834	2,261
ステイム用炭	140,399	125,977	128,195	58,700
ガス用炭	30,523	30,648	29,036	12,778
家庭用炭	50,065	57,159	53,046	25,699
其他	38,873	28,968	52,348	20,069
計	265,429	250,306	266,459	119,507

尙右の外1924年度に於ては、採炭と同時に鐵鑛其他の副産物採取額 1,140,000 磅を計上して居るので、同年度炭坑業上の總産額は 251,443,000 磅となる。而して此の内炭坑使用の石炭、木材及其他採炭に要した諸材料費又は爆發炭等を合算した額は、約41,628,000 磅と見積られて居るから、純産額と見られるのは 209,820,000 磅であつて、1人當りの純産額は、1907年度の 125 磅に比して、1924年度は 175 磅を示して居る。

次に炭坑々夫の數に付て見ると左の通りである。

	1924年			1907年		
	男	女	計	男	女	計
十六歳以下	71,966	476	72,442	59,738	645	60,383
十六歳以上	1,098,780	4,511	1,103,291	772,603	4,799	777,402
計	1,170,746	4,987	1,175,733	832,341	5,444	837,785

コークス及副産物製造業 1924年度に於けるコークス及主要副産物の生産數量及價額を示すと次の通り。

	數量(噸)	價格(磅)
コークス	12,803,000	16,859,000

タ　　　　ル	500,000	1,430,000
硫酸アンモニア	185,000	2,257,000
ベンゼン	37,900,000 (ガロン)	1,819,000
其　　　　他	—	2,024,000
計	—	24,389,000

1924年度生産總高は 24,389,000 磅と計上されて居るが、内19,388,000磅は使用原料費等と見積られて居るので、純生産高と見られるのは 5,001,000 磅である。而して本業上の従業者数は 18,548人(内職工17,469人)と算出されて居るので、1人當りの生産高は 2,700磅に當つて居る。

鐵道貨車及客車製造業 1924年度に於ける鐵道用貨車、客車及電車並同部分品の製造高は、1907年度の 9,850,000 磅に比し、15,870,000 磅を計上して居るが、此内 10,730,000 磅は使用原料其他の費用と見積られて居る。而して同年度に於ける平均従業者の数は、1907年度の28,857人(職工27,105人其他1,752人)に比し、28,344人、(職工25,441人、其他2,903人)と算出されて居るので、1人當りの純製造高は、1907年度の128磅に比し、1924年度は181磅に當つて居る。(以上3月19日附)

自動車、自動自轉車 自轉車及飛行機製造業 第一回及第二回調査との比較生産高

	1924年		1912年		1907年	
	數量 (個)	價 額 (價值)(千磅)	數量 (個)	價 額 (價值)(千磅)	數量 (個)	價 額 (價值)(千磅)
自 動 車	146,600	40,059	23,200	7,436	10,300	3,585
同 部 分 品	—	14,357	—	2,042	—	552
自動自轉車	120,400	5,877	36,700	1,613	3,700	137
自 轉 車	681,600	3,774	3,774	2,121	613,200	3,383
自動自轉車及 自轉車部分品	—	8,696	—	2,286	—	1,345
飛行機及同部分品	—	3,553	—	36	—	—
其　　　　他	—	2,616	—	761	—	431
修　　　　繕	—	14,887	—	1,744	—	1,600
計	—	93,819	—	18,039	—	11,533

上表の通り、自動車の製造数は、1912年度は1907年度に比し約2倍の數字を示して居るが、1924年度は1912年度の約7倍に達して居る。更に自動自轉車に付て見ると、1912年度は1907年度に比し約10倍の製造數を示して居るが、1924年度は、1912年度に比し更に22.8%の増加を示して居る。次に自轉車の製造振は前二者に比して夫れ程著しい變遷はなく、1924年度の製造數は、1907年度に比し僅に約10%の増加であつて、1912年度の製造數の如きは、1907年度に比し25%の減退を示して居る。

要之に1924年度本産業に於ける總生産高と計上されて居る價額は、前表の通り 93,819,000磅であるが、此内48,490,000磅は使用原料買入代及諸經費と見積られて居るので、此額を差引いた45,329,000磅が、純生産高と見られる。而して本業上に於ける平均従業者の数は、1924年度は200,272人(職工172,593人、其他27,679人)で、1907年度は53,639人(職工47,337人、其他6,302人)と算出されて居るので1人當りの純生産高は、1907年度の109磅に比し、1924年度は226磅に當つて居る。

植物性油製造業 第一回調査の結果は、油、油槽及其他の生産總高 12,961,000磅とあるのみで、細目に互つての數字を缺いで居るので、1924年度との生産比較を爲し得ないが、兎に角1924年度分のみにて見て見ると大體次の通りである。

	賣上高及在荷高	
	數 量 (噸)	價 額(賣値) (磅)
未 精 油	322,400	13,268,000
精 油	187,000	8,962,000
精 油 及 礫 割	1,454,400	13,402,000
其 他	—	712,000
計	—	36,344,000

右表の通り、1924年度の生産總高は36,344,000磅を計上して居るが、此内32,512,000磅は使用原料代等と見積られて居るので、結局純生産高と見られるのは3,832,000磅であつて、1人當りの純生産高は、1907年度（平均従業員數7,696人）の180磅に比し、1924年度（平均従業者數14,028人）は273磅を示して居る。

グリズリン、石鹼及蠟燭等製造業 第一回調査との比較生産高

	1924年		1907年	
	數 量 (噸)	價額、賣値) (磅)	數 量 (噸)	價額、賣値) (磅)
グリズリン	410,000	1,238,000	317,000	604,000
石 鹼	8,825,000	21,107,000	7,440,000	8,564,000
蠟 燭	820,000	1,874,000	946,000	1,829,000
×其 他	—	6,407,000	—	1,221,000
計	—	30,626,000	—	12,218,000

備考 ×印其他中に化粧品、パラフィン蠟骨劑等を含む

1924年度生産總高は、上表の通り30,626,000磅を計上して居るが、内19,291,000磅は使用原料代等と見積られて居るので、純生産高と見られるのは 11,335,000磅である。而して本産業上に於ける平均従業者の數は、1907年度は18,718人（職工15,596人、其他3,122人）で、1924年度は27,599人（職工 20,332人、其他7,267人）とあるので、1人當の純生産高は、1907年度の155磅に比し、1924年度は 411磅に當つて居る。（以上3月26日附）

造船業（但し政府の造船所を除く）1907年第一回調査愛蘭を含むの結果に依ると、各造船所に於ける船舶建造乃至船舶用機械製造高は42,565,000磅と計上され、内船舶建造高は約37,091,000磅と見積られて居るが、1924年度調査の結果によると、同年度内各造船所に於て船舶の建造されたもの、建造中のもの及修理又は船舶用機械製造合算總計は、64,887,000磅と見積られて居る。此内13,662,000磅は船舶用諸機械製造高で、殘餘は船舶建造等と見積られて居るが、今大體に付第一回調査との比較を示すと次の通りである。但し、1907年度の調査は愛蘭を含む。

各私設造船所に於ける	生産價額(賣値)		従業者數		純生産額 (使用原料價及諸費 を差引いたもの)		1人當り生産額	
	1924年度	1907年度	1924年度	1907年度	1924年度	1907年度	1924年度	1907年度
	(千磅)	(千磅)	(千磅)	(千磅)	(千磅)	(千磅)	(千磅)	(千磅)
船舶建造	6,804	—	135,600	188,312	22,222	18,534	164	98
船舶建造中のもの	27,769	—						
船舶の修理	16,652	—						
以上計	51,225	37,091	—	—	—	—	—	—
船舶用諸機械類	13,662	—	40,925	—	6,538	—	160	—

セメント業 第一回調査との比較生産高

	1924年		1907年(愛蘭を含む)	
	數量 (噸)	價額(賣値) (磅)	數量 (噸)	價額(賣値) (磅)
建築及土木工業用	3,143,000	6,705,000	2,877,000	3,439,000
其他用	—	946,000	—	296,000
計	—	7,651,000	—	3,735,000

上表の通り、1924年度内生産總高は7,651,000磅を計上して居るが、内2,972,000磅は使用原料其他諸費用と見積られて居るので、此差引 4,679,000 磅が純生産高と見られてる。而して本業上の平均従業者數は1907年度(愛蘭を含む)の14,819人に比し、1924年度は12,874人と算出されて居るので、1人當りの純生産高は1907年度の132磅に比し、1924年度は363磅に當つて居る。

刷毛類製造業 第一回調査(愛蘭を含む)の結果に依ると、生産總額は1,828,000磅を示して居るが、1924年度の生産總額は 3,526,000 磅を計上して居る。尤も此内 1,788,000 磅は使用原料買入又は諸費用と見積られて居るので、純生産高と見られるのは 1,738,000 磅である。而して本業上の従業者は1人當りの生産高は、1907年度の77磅(平均従業者數 11,142人、但し愛蘭を含む)に比し、1924年度は158磅(平均従業者數 10,997人)に當つて居る。

次に参考迄1924年度内に於ける生産高と、輸出入高とを、夫々比較して見ると、大體左の通りである。

	生産高 (愛蘭を含む)		輸出高 (愛蘭を含む)		純輸入高 (愛蘭を含む)	
	數量 (千打)	價額 (賣値) (千磅)	數量 (千打)	價額 (F.O.E.) (千磅)	數量 (千打)	價額 (C.I.F.) (千磅)
家庭用帚及刷毛類	3,006	1,537	234	131	1,147	323
商刷子	528	271	208	93	706	127
化粧用刷毛類	332	446	135	124	471	186
繪師ペンキ屋及裝飾用刷子類	1,112	847	155	119	657	59
其他	—	425	—	66	—	23
計	—	3,526	—	533	—	698

椰子皮纖維、馬毛及羽毛業 第一回調査との比較生産高

	1924年 價 額(賣値) (磅)	1907年(愛蘭を含む) 價 額(賣値) (磅)
椰子皮纖維製産類	434,000	243,000
馬の梳毛及同製品	1,165,000	714,000
羽 毛	293,000	152,000
其 他 の 製 品	341,000	127,000
計	2,233,000	1,236,000

1924年度生産總高は、上表の通り、2,233,000磅を計上して居るが、内 1,353,000 磅は使用原料買入又は諸費用と見積られて居るので、純生産高と見られるのは、結局 880,000 磅である。而して此従業者 1 人當りの生産高は、1907年度の68磅 (平均従業者數6,206人、但し愛蘭を含む) に比し、1924年度は196磅 (平均従業者數4,498人) に當つて居る。(以上4月4日附)

金屬綑製造業 第 1 回調査との比較生産高

	1924年		1907年(愛蘭を含む)	
	數 量 (噸)	價額(賣値) (磅)	數 量 (噸)	價額(賣値) (磅)
鐵 及 鋼 鐵				
ワイヤ・ロッド	23,200	293,000	8,500	61,000
ワイヤ	277,300	6,915,000	163,600	2,520,000
ワイヤ製品	—	6,296,000	—	2,501,000
眞鍮ワイヤ	—	145,000	—	218,000
銅ワイヤ	23,800	2,172,000	1	909,000
銅及眞鍮ワイヤ製品	—	349,000	—	160,000
其他の見積り	—	1,110,000	—	231,000
計	—	17,280,000	—	6,600,000

1924年度生産總高は上表の通り17,280,000磅と計上されて居るが、内11,083,000磅は使用原料買入其他の諸費用と見積られて居るから、純生産高と看做さるゝものは、此差引6,060,000磅である。而して本産業上に使用された平均従業者の數は、1907年度(愛蘭を含む)は18,329人(賃銀職工17,016人、其他1,313人)で、1924年度は25,015人(職工22,584人、其他2,431人)と算出されて居るので、此従業者 1 人當りの純生産高を見ると、1907年度は116磅で1924年度は242磅に相當して居る。

次に参考迄に英國1924年度に於ける鐵及鋼鐵ワイヤ及同製品の輸出入狀況を示すと、大體左の通りである。

	輸 出		輸 入	
	數量(噸)	價額(磅)	數量(噸)	價額(磅)
ワイヤ・ロッド	4,390	54,500	73,880	734,100
ワイヤ	77,920	2,115,300	45,690	£03,900
ワイヤ製品	50,190	2,377,400	58,330	1,047,900
計	132,500	4,547,200	177,900	2,585,900

マツチ業 第 1 回調査との比較生産高

	1924年		1907年 (愛蘭を含む)
	炭 スタンダードクロス 10,000個	價 値	價 額
安 全 マ ッ チ	1,800,000	1,019,000	775,000
其 他 の マ ッ チ	5,430,000	3,187,000	
焚 附	15,000	134,000	66,000
其 他	—	31,000	14,000
計	—	4,371,000	855,000

上表の通り、1924年度に於ける生産總高は 4,371,000 磅と計上されて居るが、内 923,000 磅は使用原料價乃至諸費用と見積られて居るので、結局 3,448,000 磅が純生産高と看做さるゝ。而して本産業上に於ける平均従業者の数は、1907年度（愛蘭を含む）の4,256人（賃銀職工3,865人、其他391人）に比し、1924年度は5,108人（職工4,656人、其他452人で）あつて、此従業者1人當りの純生産高は、1907年度の96磅に比し、1924年度は675磅（但し約337磅の消費税を含む）の額を示して居る。

次に参考迄に英國1924年度に於けるマツチの輸出入數量を生産數量と對比して見ると次の通りである。

(數量單位1萬個)

	愛蘭を除く	北部愛蘭を含む	
	生産數量	輸出數量	英國内消費用としての輸入數量
安 全 マ ッ チ	1,800,000	149,000	3,623,000
其 他 の マ ッ チ	5,430,000	153,000	1,988,000
計	7,230,000	302,000	5,611,000

紙箱製造業 第1回調査の結果に依れば ボール箱及其他の紙箱製造高（但し賣値）は、2,054,000磅と計上されて居るが、1924年度では5,482,000磅と計上され、内原料買入及其他の諸費用を2,510,000磅と見積られ、此差引 2,972,000 磅を純生産高と見積られて居る。而して本業上の平均従業者の数は、1907年度の20,427人に比し、1924年度は19,472人で、此1人當りの純生産高は、1907年度の52磅に比し、1924年度は153磅とされて居る。（以上4月9日附）

窒素肥料需給狀況 (米國)(4月13日附在紐育・帝國大使館商務書記官原明治郎報告)——窒素肥料の需給及製造工業概況—各肥料の需給事情—合成安母尼亞工業に對する政府の施設—各種統計—關係書類目次

窒素肥料の需給及製造工業概説 米國に於ける窒素肥料の供給資源としては、獸肉罐詰會社の種々の廢物、棉實油粕、魚類屑等あれども、是等の有機窒素化合物は、一面に於ては家畜飼料としての用途を擴くしつつあると共に、一層高度にして取扱に便なる無機窒素化合物に其肥料として地位を譲りつつあり。而して無機窒素化合物は主として、智利硝石及硫酸安母尼亞にして最近獨逸に發達せる空中窒素の固定に依る合成窒素化合物は、米國に於ては Cyanamid の誘導物たる Ammonphos の外肥料として市場に出づるものなし。智利硝石及右の Cyanamid を除く外各種窒素肥料は何れも他の製造工業の副生産物にして、其供給は主要産物の需要に依て制限を受け居れり。是れ米國に於ては智利硝石が殆ど窒素肥料の一般市價を決定する主たる地位にある所以なり。歐洲市場に於ては、最近獨逸

の合成窒素肥料が主たる決定的要素なるも、米國にては獨逸合成窒素に對しては關稅の障壁あるのみならず、實際多量の輸入行はれず。

而して火藥製造其他の化學工業用をも含む無機窒素化合物の米國に於ける1922年の消費を窒素含有量に引直し概算すれば

1、國內製産		智利硝石	94,779
石炭の乾溜に依る生産	98,900噸	其他の窒素化合物	22,082
獸骨の乾溜に依る生産	200	合計(1及2)	219,061
空中よりの固定に依る生産	3,100	3、輸 出	39,389
2、輸 入		4、差引國內消費	179,672

上の内智利硝石の米國に於ける消費の目的に依る百分率比は、次の如し

	1914年	1919年
農 業 肥 料 用	58.7	61.7
他 の 工 業 用	41.3	38.3
合 計	100.0	100.0

而して硫酸安母尼亞の單獨又は合成肥料として消費せらるゝもの、1922年に4萬4,000噸(窒素含有量に依る)なりとす。

即ち現状に於ては、窒素肥料としては智利硝石の外は副生硫酸安母尼亞、石炭窒素 Cyanamid にして、合成安母尼亞又は合成硫酸安母尼亞に就ては、肥料としての製造に幾多の計畫あるも、現状實際使用の例なし。然れども最近政府農務省の研究所及各民間有力會社の研究試験は、過去數年間に著しき進歩を示し、1925年以來は其製産原價亦相當の低下を爲すを得、或者は固定窒素1封度7仙の原價を以てし得るは近きとありとせるのみならず、肥料以外の化學工業用としての合成安母尼亞製産は既設の多數工場及其設立計畫に依て、今や需要を滿し得る點以上に昇らんとし居れるを以て、今後は當然肥料製造に向つて其發展の道を求むるに至る可し。勿論之に對しては最近智利硝石製産組合の解體に伴ふ硝石價格の低下及副生産物たる硫酸安母尼亞の産出量如何に依て多大の影響を蒙る可き事明なるも合成安母尼亞に依る肥料製造工場は、最近彼の有力なる Du Pont Co. の分身會社たる Lazote Inc が Claude 式の改良進歩に依て新に手を染めんと傳へらるゝのみならず、米國の代表的化學工業會社たる、The Allied Chemical は、最近肥料製造を目的とする大規模の合成安母尼亞工場を、Virginia 州 Hopewell に創立する旨の發表を爲したるあり、今後此方面の進歩發達は刮目に價するものあらん。

各肥料の需給事情 (イ)硫酸安母尼亞の製産額は第1表の通り、而して本品は主として製鐵業に伴ふコークス製造及瓦斯製造の副産物にして、其生産工業別生産高第2表 A, B, 及 C の通り硫酸安母尼亞として販賣せらるゝコークス副生安母尼亞に關する統計は第3表 A 及 B、同じく石炭瓦斯副生物は第4表の通りなり。

而して大約して米國に産出する硫酸安母尼亞の約9割はコークス製造の副生物にして、全産額の約

65%が肥料用として使用せらる。而して國內産額の約90%に當る販賣量は Allied Chemical 會社の分身たる資本金 200萬弗の Barrett Co. (前名 American Coal Products Co.) の取扱に係り、手数料取引を以て各肥料會社に販賣す。

米國に於ける肥料製造會社(各種肥料及混合肥料)は其數642社(1922年)に達するも、所謂“Big Six”が其内 60% 以上を取扱ふ。即ち

1、The American Agricultural Chemical Co. (New York C.)	公稱資本金	1 億 弗
1、The Virginia Carolina Chemical Co. (Richmond, Virginia)	同	6,800萬弗
1、The international, Agricultural Corporation, (New York, City)	同	3,600萬弗
1、The Armour Fertilizer Works (New Jersey)	同	100 萬弗
(本社はシカゴ市アーモア會社の所有する所なり。)		
1、F. S. Rayster Guano Co. (Norfolk, Virginia)	同	247萬3,800弗
1、Swift Fertilizer Works. 本社はシカゴ市スキフト會社の經營なり。		

米國に於ける各種肥料の市價は、北部に於ては American Agricultural Chemical 南部に於ては Virginia Carolina Chemical 會社の支配する處なりとす。而して硫酸安母尼亞の國內消費年額は第 1 表の通り又安母尼亞窒素としての用途別消費額は第 6 表の通り、硫酸安母尼亞輸出年額第 7 表同仕向先國別は第 8 表の通り。

硫酸安母尼亞將來の製産の増減を支配す可き因子は

(A) 主たる硫酸安母尼亞の供給者は、前説の如くコークス製造所なる事。而してコークス製産量を決定す可き第 1 の因子は、鉄鐵製造用コークスの需要にて、過去 20 年間米國鉄鐵生産の増加は毎年 100 萬噸の程度なり、從而將來コークスの需要は年々増加を示す可きものと認む可し。

(B) コークスの利用は家庭用燃料として漸次無煙炭の地位を奪ひ、又都市燈火及燃料用としての瓦斯發生は、漸次コークス製産の増加する事。

(C) 製鐵用コークスの製産は、漸次ピーハイブ窯より副生物利用の製法に移れり。現在のコークス製造窯の約 60% 強の副産物利用を爲すものなれども、將來 7—8 年の内に之が約 80% 迄に増加を見る可しと豫想せらる。勿論ピーハイブ窯は Cost 少にして作業の開閉容易なれば之が全然無くなるものには非ず。

(D) 製鐵上コークス節約裝備の進歩及電氣爐の利用増加は、コークスの消費を減少す可きも、鐵製産絶對量の増加によるコークスの需要に比し、其減退量は僅少なり。

(E) 現在都市にて利用の Water 瓦斯が、漸次石炭瓦斯に變りつゝある事。

(F) ミシシッピー河以東の各州にて利用しつゝある天然瓦斯が漸減し、石炭瓦斯が之に變りつゝある事。

以上の各事實を基礎とし、1922年に於ける硫酸安母尼亞實産額を用ひ、1933年の産出見積を爲せる

もの第9表の通りなり。

硫酸安母尼亞の生産費如何は、夫が副産物にして各種の工場及装置に依る産物たる點に於て、推定甚だ困難なるが、其生産費を構成す可き要素は、

(a) 硫酸強度 Baumé 60度のもの1噸硫酸1噸の製造に必要なり。

(b) 水液中の安母尼亞放出に要する石灰。

(c) 積出用の包装袋。

(d) 生産中の労力は saturators 及 dryers の労働者、石炭及水液處理するもの、乾燥器中の安母尼亞を倉庫に運搬するもの及包装し船積するものなり。

(e) 多量の水及水蒸氣を要す。

(f) 一切の工場設備附屬倉庫等の設備の維持及修繕に要する利子及び其他の費用。

是等の費用を計算する時は、硫酸安母尼亞の原價は甚だ僅少にして、智利硝石又は合成安母尼亞亦其敵に非ず。而して何れのコークス製造所に於ても、硫酸安母尼亞の製造は離る可らざる操作と認められ。何れも其装置を計算に入れ且普通此装置に依る収入は、石炭1噸に付生ずる硫酸安母尼亞 25 封度而して此工場渡價格は平均1噸60弗を以て建つるを得と稱せらる。

右石炭1噸當り硫酸安母尼亞生産量及價格は第10表の通り。然れども此の價格は尙種々の因子を充分に含まずと爲し、Barret. Co., Atwater 氏に依る内國取引價格は第11表の通り、尙 American Fertilizer Book に依る硫酸安母尼亞市價年表は第12表同最近3年間月別表第13表の通り又智利硝石市價年表第14表の通り同最近3年月別表及米國及歐洲向輸入第15表の通り。

而して或る専門家の推定に依れば、智利硝石の米國供給は平均價格噸 35 弗以上に於て支持し得可く、夫以下にては漸次供給を減じ、噸 28 弗以下にては全然供給を絶つ可しと云へり、之を含有窒素量に引直したる相當の硫酸安母尼亞價格は前者は、噸46弗後者37弗の相場なるが、46弗相場と雖も最低の相場にして、近き將來に市場に行はる可き事之無しと認めらるゝも、假に此相場を前記一般平均原價たる工場渡60弗に比較する時は使用石炭1噸に付17仙半の収入減となる。仍而石炭瓦斯工場に於ては、各種の装置及産物其他に於て使用石炭1噸に對し此程度の収入を取返す事は必ずしも難事に非ず。仍而硫酸安母尼亞供給の將來は、コークス及石炭瓦斯の需要に依て支配せらると稱して大過なかる可し。

(ロ) Calcium cyanamid 又は Calcium of lime は電氣装置に依る空中窒素を抽出し、高溫度に於て Calcium Carbide に化合しめたるものにして、其製法特許に關し、其製造は1910年紐育に設立せられたる American Cyanamid Co., が Niagara Falls の加奈陀側に Cyanamid の工場を建設したるに初り、其規模は設立當時含有窒素量にて年3,500噸、1911年には7,000噸、1916年には13,000噸と稱せられ、戦争前に於ては Cyanamid 額の90%は一般米國工業會社に賣渡され、内7/8は直接間接肥料に振向けられたりと云ふ。然るに同社は1916年 Cyanamid より Ammonia を發生し、之を磷礦

石に作用せしめて Ammophos を製出する爲に、工場をニュー・ヂャージー州、ワーナーに設立したるが1917年には本工場は軍需工場に振向けられたり。戦後の年産額表第 16 表の通り、最近の能力年 36,000噸と稱せらる。

而して本品の製産は土狀燐礦石を硫酸を以て處理し、共に生じたる硫酸石灰の一部を除去したる後安母尼亞を以て之を中和したるものにして、硫酸安母尼亞が肥料としての窒素を、肥料としては何等の價値なき或意味に於ては土壤に有害なる硫酸に結合せしめたるに對し、肥料として有用なる磷酸に合せしめたるものにして、硫酸安母尼亞が單に肥料として有效成分として窒素分 20 % を含むに對し Ammophos は窒素分 20% の上に、Phosphoric Anhydride (P_2O_5) 20% を含有す、即ち本品は肥料としての有效成分に於て硫酸安母尼亞に優るものにして、肥料分の一定分量に對する運賃係りの減少は本品の強味なり。是れ即ち本品が主として、輸出向に使用せらるゝ所以にして本邦に於ては三菱商會社主として之が輸入に當れり。但し本社の現状に於ては、原料たる Cyanamid は加奈陀オンタリオ州ナイヤガラ・フォールスにて製造し、燐礦石はフロリダに産出し、之を New Jersey の工場に於て合成するものにして、工場の位置の轉換に依て、尙一層其 Cost を引下げ得可く、又製法に於ても尙研究の餘地ありとす。

The American Cyanamid Co. は公稱資本金 1,800萬弗1926年6月末資産總額17,475,000弗、積立 136萬2,000弗、同期(1年間)賣上1,184萬9,000弗(工場渡價格)、利益税金及特許權減價差引165萬2,000弗、1923年後半に Benjamin G. Duke なるものに200萬弗に達す Virginia Carolina Chemical Co. の本社持株を買収したりと云ふ。

(ハ)合成安母尼亞 米國に於ける空中窒素固定工業は、1902年The Atmospheric Products Co.がナイヤガラ・フォールスに電極式(Electric Arcs.)を以て創始せるに始る。此試みは結局失敗に終りたるも、後に諾威は1903年此法に成功せり。次には硝酸製造を目的として電極式を採用し、サウス・カロライナ州ニトロレーに設立せられたるものにして後には硝酸を肥料用の Calcium Nitrate に製造し又 Ammonium Nitrate の製造をも試みたれども、終に戦時中之を閉鎖したり、1910年加奈陀頭ナイヤガラ・フォールスに工場を設立したる The American Cyanamid Co. は、次に設立せられたる空中窒素固定工場にして、同社の Cyanamid Ammophos に就ては前(ロ)項に述ぶる所の如し。

前記 Arc process に依る空中窒素固定工業は、更に1917年ワシントン州ラグランドに於て創立せらる。即ち資本金125萬弗の The American Nitrogen Products Co. にして、年産窒素量 350 噸即ち智利硝石に換算して 2,250 噸に過ぎず。而して本社は其得たる窒素を Sodium Nitrite となし、主として染料製造原料に供す。其累年産額表第 17 表の通り。戦時中 Sodium Nitrite の市價騰貴するや、更に工場を British Columbia, Lake Buritgler に建設し、1919 年資本金を1,000萬弗に増加したるが、後金融上の困難に會ひ、採算不良の同工場を手離し、事業を休止せるが、1923年 Le Grande 工場再開年産571噸の作業を爲せるも、輸入諾威産 Nitrite の競争に堪へず業況振はず。

戦時中獨逸オツパウに創始せられたる Haber-Bosch 式空中窒素固定工業は、米國に於ては The General Chemical Co. が、政府の第一號硝酸工場に於て、大體同一の形式に範り合成安母尼亞製造を爲したるも、失敗に歸し、後紐育州シラキウース市に於て The Atmospheric Nitrogen Corporation は之に成功せり。

本社の創立は1919年12月、資本金200萬弗にして、Solvay Process Co. 及 Semat Solvay Co. と密接の關係にありて、之と共に1920年12月 Allied Chemical & Dye Co. の支配下に入れり。

Allied Chemical は1927年2月1日に至り、同社が450萬弗を費して研究し來れる 空中窒素固定作業は、彌々之を大規模に經營し、將來米國をして肥料及軍需用品として全然窒素化合物輸入の必要なからしむる程度に達せしむるに至れるを發表し、右研究は從來 Muscle Shoals に於て行はれたるも、同地は生産條件上有利ならず、ヴァヂニア州ホープウエルに鐵道及水運の便利ある地 (400 エーカー) を買收し、工場を建設する旨發表したり。本社は1920年12月17日公稱資本金 Noper value 普通株314萬3,455株、7分利附優先株 9,732萬6,400 弗を以て、左記各社の合同を目的として設立せられたるものなり。

General Chemical Co. (各種酸及 Heavy Chemicals)の販賣)

Semant-Solvay Co. (コークス及其副生物の製造販賣)

Solvay Process Co. (アルカリ製造販賣)

Barrette Co. (前出コールドター産物の販賣)

The National Aniline and Chemical Co. (染料製造及販賣)

1926年12月31日本社の資産状態を要約すれば、資産合計3億3,700萬弗、剩餘金1億6,100萬弗、同日に終る一年間収益2,400萬弗を示す。

佛國 Claude 式に範る製造工場は、Du Pont 會社がサウスカロライナ州チャールストンに經營せる Lazote Inc. の工場にして最近幾多の製造法の改善をなし、ウエスト・ヴァヂニヤ州の石炭を Water-gas の製出に利用して、窒素を得る cost を減少するを得たりと傳へらる。

次に伊國 Casale 法に依る安母尼亞及び化學製品の製造權は The Ammonia Corporation of New York の所有する處にして、其窒素肥料製造權は Hydro-Electric Chemical Co. の所有する處にして、The Ammonia Chemical Corporation は、1923年7月14日 資本金60萬弗を以て、Niagara Ammonia Co. を設立し、工場を Niagara Falls に建設し、1924年12月より作業を開始し、Anyhydrous Ammonia 及 Acqua Ammonia を製造す。然るに本社は其 process の特許權に關し、前記 Du Pont の經營に係るサウス・カロライナ、チャールストン市の Lazote Inc. と係争問題を起せるのみならず、製産品販賣上値段の激烈なる競争に堪へず、本年に入りて工場作業を中止したりと傳へらる。

空中窒素固定工業の米國式と稱せらるゝものは、即ち The Mathieson Alkali Works のナイヤガラ・フォールズに於ける工場にして米國農務省の窒素固定試験場に依て發見せられたる方式を採用す。而してマチーソン・アルカリ會社のナイヤガラ工場設計は Mr. Pope 氏の率ゆる Synthetic Nitrogen

Corporation の手に成れるものにして、同會社は右方式に依る工場の設計及建設を引受くる 建設工事請負を業とせり。Mathieson Alkali 會社は現在 1 株10弗乃至11弗の利益ある Nopar value 普通株 14萬 7,000 餘株、年收200萬弗と稱せられ、資産收益状態良好にて、1927 年には 1 株12弗の収益ある可しと豫想せらる。製品はナイヤガラ・フォールスにて液狀鹽素及苛性曹達、Virginia Saltville工場にて曹達灰を主産物とし、ナイガラフォールスにて従來捨て去れる副産物たる水素を利用して、アンモニアの製造を爲すを以て、Cost を低くし、有利の經營を爲し得るなり。

以上直接合成方法の外、Cyanide Process に依る工場は、戰時中政府がヴァージニア州サルツヴィル市に於ける Mathieson Alkali 工場の側に建設し、Bucher の特許法を實行したるも、後閉鎖し尚 Bucher 特許權所有者たる The Nitrogen Products Co.と共にロードアイランド州グリーン市に試験工場を經營したり。更に戰時中 The Air. Reduction Co. はニュー・ゼルシー州ゼルシー市に同法による工場を建設し、次で加州ロスアンゼルス近傍 Cudahy California Cyanide Co. 工場を設立し、日産 Sodium Cyanide 8 噸、hydrocyanic acid を製造し、最近之を園藝用除蟲劑に製造せり。

合成安母尼亞工場に對する政府の施設 合衆國政府の窒素固定工業に對する施設は、同國歐洲參戰前1916年6月3日の國防法第124條に依る 2,000萬弗を支出して、大統領に窒素工場建設の權能を賦與したるに初れり。即ち政府は先づ Bucher-Cyanide 式によりアラバマ州シェフィールドに第一工場を建設し、次でヴァージニア州サルツヴィルに Cyanide 工場を設立す。次で政府は Cyanamid 式に依り Muscle Shoals に第二工場を建設し、オハイオ州に第三第四工場建設を企畫しつつありたるが、幾許もなくして、大戰は終結し是等の工場は何れも其生産物を市場に出す事なくして閉鎖せられたり。

而して第一工場は作業上失敗に終り、之が商業上の利用は現在問題とならざれども、或者は其方法如何に依りて肥料製造上の利用困難ならずと云へり、次に第二工場の現状にては Norwegian Nitrate 及 Ammonium Nitrate の製造は有利ならざれども、相當の設備の改善を加ふるに於ては Cyanamid 22 萬噸及硫酸安母尼亞 22 萬噸を有利に製造するの能力を有せり。然れども現在前者 Cyanamid の米國需要僅に 5 萬噸に過ぎず、後者は生産50餘萬噸にして何れも現在の米國肥料界にとりては、其生産物販賣上の困難あり。但し Cyanamid は今後或は Ammophos として、又 Urena として販路開拓の道なきに非ざる可し。最近 American Cyanamid Co. は本工場を引受け 操業するの案を政府に提出したるも、未だ拂下の決定を見ず。

更に政府は、戰時軍令を以つて窒素固定事業に關する 研究場を設立し、戰後之れを首府華盛頓の American University に附屬せしめ、1921 年陸軍省より農務省に移管せり。同研究所は窒素固定に關する一切の基本問題を研究しあらゆる設備機械を具備せるのみならず、工場器機の改良案出に力を致し相當の成績を挙げ居り、本工業關係者に幾多の助力をなし、又工場建設作業上の助言を與へ居れり。

Table 1.—Annual Production of Sulphate of Ammonia.

For the purpose of comparison, the following figures in tons of 2,000 pounds show the production of sulphate of ammonia from 1905 to 1925, inclusive:

	Tons		Tons
1925	*600,000	1914	183,000
1924	569,622	1913	195,300
1923	603,363	1912	165,300
1922	476,761	1911	127,000
1921	358,500	1910	116,000
1920	499,463	1909	106,500
1919	403,223	1908	83,400
1818	379,278	1907	99,309
1917	325,670	1906	75,000
1916	288,262	1905	65,296
1915	240,049		

* Estimated.

Table 2.—United States By-Product Ammonia Productions, Expressed in Sulphate Equivalent Tons of 2,000 pounds.

Year	By-Product Coke Ovens	Coal-Gas, Bone Carbonizing, Etc.	Total	Per cent from Coke Ovens
1918	348,654	30,624	379,278	92
1919	373,223	30,000	403,223	92.5
1920	469,463	30,000 (b)	499,463	93.9
1921	338,500	30,000 (b)	353,506	91.6
1922	449,232	27,529	476,761	94.2
1923	575,363	28,000 (b)	603,363	95.4
1924	544,622	25,000 (b)	569,622	95.6
1925	—	—	600,000	—

Note. b-Estimated.

Table 2.—Ammonium Sulphate and Equivalent Produced in the United Kingdom
Tons of 2,240 pounds.

	Gas Works	Shale Works	Iron Works	Coke Works	Other Works (Synthetic; Producer Gas. Carbonizing, etc.)	Total
1917	188,478	60,560	13,621	166,354	29,604	458,617
1918	173,541	58,311	12,717	164,448	23,534	422,551
1919	164,826	46,187	10,333	137,149	19,142	777,637
1920	167,386	51,576	9,919	150,012	19,044	397,937
1921	150,228	35,146	3,265	56,427	8,187	253,253
1922	163,863	45,860	3,079		138,340	351,142
1923	167,567	50,683	8,553	186,610	12,177	425,590
1924	172,026	52,163		229,279		453,468

These figures are from Alkali Inspector's reports, the last six years
being figured on a basis of 25 $\frac{1}{2}$ per cent. NH_3

Table 2.—Ammonia Nitrogen Available in the United States from all Sources

(In tons of nitrogen, round numbers.)

	1921 Short Tons	1922 Short Tons	1923 Short Tons
From coke ovens: In ammonium sulphate	54,500	72,100	103,000
In ammonia liquor	13,200	20,600	20,600
From gas works: In ammonium sulphate	400	400	400
In ammonium liquor	5,800	5,800	5,800
From bone distillation, etc:	200	200	200
From the air	1,000	3,100	3,500
Imports of ammonium sulphate	1,000	1,000	200
Total	76,000	103,200	133,700

Note. Data for nitrogen from coke and gas for 1921 based on United States Geological Survey figures imports figures from Bureau of Foreign and Domestic Commerce records. Other quantities are estimates.

Table 3.—Ammonia from By-Product Coke Ovens in the United States

(Date from U. S. Geological Survey.)

Year	Ammonium sulphate produced	Nitrogen in ammonium Sulphate	Ammonia in liquor (NH_3)	Nitrogen in liquor	Total in equivalent ammonium Sulphate	Total Nitrogen
	Short Tons	Short Tons	Short Tons	Short Tons	Short Tons	Short Tons
1922	348,000	72,000	25,000	21,000	449,000	93,000
1921	264,000	54,000	16,000	13,000	328,000	67,000
1920	338,000	70,000	33,000	27,000	469,000	67,000

Note 1. Includes a small quantity of ammonia in "other forms."

Table 3.—Sulphate of Ammonia Produced and Sold at Coke oven
Plants in the United States.

	1921 Short Tons	1922 Short Tons
Produced as Sulphate	264,319	347,772
Sold as Sulphate	265,021	357,376
Value of Sales: Sulphate	\$ 13,100,703	\$ 17,818,236
Unit Value of Sales: Sulphate (per Ton)	\$ 49.40	\$ 49.86

Table 4.—Nitrogen from Coal-Gas Plants.

Year	Ammonium Sulphate produced	Nitrogen in ammonium Sulphate	Ammonia in liquor (NH_3)	Nitrogen in liquor	Total equivalent ammonium Sulphate	Total Nitrogen
	Short Tons	Short Tons	Short Tons	Short Tons	Short Tons	Short Tons
1922	2,000	410	7,000	5,770	30,000	6,180

1921	1,900	390	6,650	5,460	28,500	5,870
1920	2,100	430	6,700	5,540	29,000	5,970

Note 1. Estimated.

Table 5.—Annual Consumption of Sulphate of Ammonia.

The total consumption of sulphate of ammonia for the year 1909 to 1925, inclusive, is given in the following table:

1925	*499,859	1916	337,962
1924	436,853	1915	248,374
1923	406,713	1914	258,010
1922	333,796	1913	260,775
1921	248,022	1912	224,542
1920	402,749	1911	221,633
1919	263,223	1910	208,342
1918	484,875	1909	149,414
1917	375,585		

Table 6.—Disposition of Ammonia Nitrogen in the United States.

(In tons of Nitrogen.)

	1919	1921	1922	1923
	Short Tons	Short Tons	Short Tons	Short Tons
In mixed fertilizers	33,000	22,100	42,000	51,000
As ammonium sulphate fertilizer	2,000	1,500	2,000	2,000
In anhydrous ammonia	11,500	11,500	12,500	12,500
In aqua ammonia	3,100	4,100	5,000	5,000
In ammonium salts	800	1,500	2,000	2,000
Exported in ammonium sulphate	11,300	23,700	33,600	35,000
Total	61,700	64,400	97,100	108,500

Note:—1. Preliminary.

2. Estimated.

Table 7.—Export of Ammonia Sulphate.

The U. S. Department of Commerce did not segregate exports of domestic sulphate of ammonia until May, 1920. From that date they were as follows, in gross tons:

1920 (8 months)	66,714	1923	153,677
1921	115,155	1924	118,367
1922	147,331	1925	123,141

Table 8.—Countries Sulphate of Ammonia Was Exported to.

	1924		1925	
	Tons	Value	Tons	Value
Spain	1,939	\$ 100,427	—	—
Cuba	20,344	1,262,267	6,088	\$ 315,194
Dutch East Indies	38,978	2,194,257	45,950	2,438,930
Hong Kong	1,390	89,928	—	—

Japan	32,212	1,978,632	52,421	2,967,972
Philippine Islands	19,617	1,071,252	9,175	492,316
Other Countries	3,887	221,835	9,507	534,316
Total	118,367	\$ 6,918,598	123,141	\$ 6,748,728

Table 9.—Estimated Production of Nitrogen from Coal in 1923.

(Expressed in tons of nitrogen.)

	Short Tons
Present production at by-product ovens	120,000
Increase from substitution of by-product coke for beehive coke	40,000
Increase because of increasing iron and steel demand	25,000
Increase from substitution of coke-oven gas for present carburetted water gas	10,000
Increase from substitution of coke-oven gas for natural gas	20,000
Increase because of new demands for city gas and coke for domestic or gas-making use	25,000
Total from coke ovens	240,000
Estimated present production at coal-gas works and from other sources	10,000
Total ammonia nitrogen excluding any increases in nitrogen fixed from the air	250,000
Equivalent in ammonium sulphate	1,250,000

Table 10.—Fields and Prices Realized by Coke Producers for Ammonium Sulphate.

Years	Average Price per ton of Sulphate	Yield of Sulphate, per ton of Coal	Years	Average Price per ton of Sulphate	Yield of Sulphate, per ton of Coal
		Pounds			Pounds
1911	\$ 53.50	—	1917	\$ 68.00	17.8
1912	49.00	—	1918	90.00	18.9
1913	61.50	—	1919	75.00	20.8
1914	55.00	—	1920	86.60	21.4
1915	56.50	20.1	1921	49.50	22.8
1916	62.50	17.7	1922	49.80	21.9

Table 11.—Average Quoted Prices of Sulphate of Ammonia to the Home Trade.

1911	\$ 62.21	1917	\$ 94.60
1912	65.57	1918	98.60
1913	62.86	1919	77.60
1914	54.20	1920	86.22
1915	66.17	1921	50.50
1916	76.56	1922	55.00

Table 12.—Average Price of Sulphate of Ammonia, Per Ton (2,000 Pounds.)

1914	\$ 54.20	1920	\$ 86.22
1915	66.16	1921	50.50
1916	75.56	1922	55.00

1917	96.60	1923	61.60
1918	98.60	1924	52.00
1919	77.60	1925	52.89

Table 13.—Prices of Sulphate of Ammonia.

The following figures represent the asking prices of New York dealers for domestic spot sulphate during the periods mentioned.

	1923		1924		1925	
	High	Low	High	Low	High	Low
January	\$ 3.40	\$ 3.20	\$ 3.00	\$ 2.90	\$ 2.80	\$ 2.75
February	3.40	3.20	3.00	2.90	2.80	2.66
March	3.25	3.15	2.95	2.70	3.00	2.95
April	3.25	3.15	2.75	2.65	3.00	2.95
May	3.25	3.15	2.65	2.60	2.95	2.75
June	3.45	3.00	2.65	2.60	2.80	2.75
July	3.25	3.10	2.50	2.60	2.75	2.75
August	3.10	3.00	2.45	2.35	2.85	2.75
September	3.10	3.00	2.65	2.60	3.00	2.85
October	3.10	3.00	2.70	2.60	3.00	3.00
November	3.10	3.00	2.80	2.66	3.00	3.00
December	3.00	2.85	2.80	2.70	3.00	3.00

Table 14.—Average Price of Nitrate of Soda from 1905 to 1914

(Per 100 Pounds.)

1905.....	\$ 2.32	1910.....	2.12
1906.....	2.35	1911.....	2.16
1907.....	2.49	1912.....	2.41
1908.....	2.24	1913.....	2.46
1909.....	2.14	1914.....	2.09

Table 15.—Prices of Nitrate of Soda.

The high and low prices for spot nitrate of soda at New York, 1925 to 1925, are as follows:

	1923		1923		1923	
	High	Low	High	Low	High	Low
January	\$ 2.60	\$ 2.55	\$ 2.53	\$ 2.45	\$ 2.62½	\$ 2.53
February	2.60	2.60	2.52	2.45	2.67½	2.66
March	2.70	2.60	2.55	2.50	2.69	2.65
April	2.70	2.60	2.65	2.53	2.68	2.63
May	2.60	2.55	2.65	2.60	2.66	2.65
June	2.55	2.40	2.65	2.48	2.57½	2.52½
July	2.45	2.40	2.60	2.48	2.57½	2.44

August	2.42½	2.40	2.50	2.50	2.47	2.47
September	2.45	2.40	2.50	2.40	2.53	2.50
October	2.45	2.40	2.40	2.39	2.58	2.55
November	2.45	2.40	2.42½	2.37½	2.62	2.59
December	2.55	2.50	2.47½	2.42½	2.64	2.63

Table 16.—The Shipment of Nitrate of Soda from Chile for the year 1923-1925.

	To Europe	To United States	To Other Countries
1923	1,189,009	885,171	154,672
1924	1,262,784	913,632	148,905
1925	1,177,165	1,134,180	166,065

Table 17.—The Sales of "Ammono-Phos."

Year	Total Sale (Tons)	Domestic Sales (Tons)
1918	1,118	372
1919	6,822	940
1920	26,331	204
1921	284	7
1922	4,806	24

Table 18.—Production of Sodium Nitrite at La Grande.

Years	Sodium Nitrite	Equivalent fixed Nitrogen	Years	Sodium Nitrite	Equivalent fixed Nitrogen
	Short Tons	Short Tons		Short Tons	Short Tons
1917 (beginning in June)	126	24.6	1922	None	—
1918	910	177.5	1923	571	111.7
1919	510	99.5 (January to July)			
1920	1,060	206.7	Total	3,271	637.9
1921 (January only)	94	18.3			

關係書類目次

Name	by	Publisher	Year
The Nitrogen Situation	Harry A. Curtis	Government Printing Office Washington, D. C.	1924
Fertilizer Industry	—	„	1923
Utilization of Atmospheric Nitrogen	Thomas H. Norton	„	1912
A Survey of the Fertilizer Industry	E. A. Golden-weiser	„	1919
Report of the Fixation and Utilization of Nitrogen	—	„	1922

獨逸最近の企業合同傾向 (4月14日附在獨・長岡大使報告) 獨逸は平和條約の結果土地、人民共に伴ふ生産手段を喪失せるを以て、其生産力大に減少せり。殊にアルサス、ローレン及ルクサンプル地方に於ける鑛山、工場之喪失に依り獨逸重工業は大打撃を蒙れり。加ふるに平和條約に依り獨逸

工業は過重の負擔を課せられたるを以て工業の生産及能率を増加する爲め右企業計畫を共同にし目的を一にする必要増加し其結果各企業の集中合同の傾向を生じたり。殊にインフレーションは企業擴張を便ならしめたるを以て各企業は融合、聯合、利害共同契約の締結、又は他の會社の株式獲得に依る參與等の形式に依り結合せり。斯くして獨逸經濟界には各方面に於て以上凡ての形式に依り結合せる大企業團續出せり。其企業團中にも特定同一種類の生産を營む企業を集合統括せる水平的のもの、及原料より完成品に到達する迄の各生産階梯を集合統一せる垂直的のもの2種ありたり。然るに1923年末より貨幣安定し始むるや經濟界は生産過多、資金缺乏等の結果大不況に陥り、各企業團は急に事業緊縮を爲せるもインフレーションに乘じ生産的連絡無きに拘らず融合又は聯合せるものは其結合を維持する事も能はずスチンネス初め多くの企業團は破産、解散又は事務監理等の状態に陥れり。

而して基礎強固なる企業團も緊縮方針に出で眞に生産上相補足するものみの結合を維持するに至れり。而して垂直的結合は廢れ水平的結合に漸次復歸する傾向あり。1925年以降獨逸經濟界は此意味に於ける改造の時機に達せるが今日該傾向を經濟の合理化 *Rotionalisierung* なる言葉を以て表示せり。而して今日迄の處企業合同に於て進歩を示せるは主として重工業及化學工業の方面なるが、其他の工業に於ても企業改造の必要強く認められ工業家乃至銀行家間に絶えず論議せられつゝあるを以て企業の合同は今後益々行はるゝものと認むるを得べし。

今兩年度に於ける經濟組織の變化を各部門に分ち略記すれば次の如し。

鑛山業：—鑛山業には最近スチンネス企業團の解體、及合同鋼鐵會社 (*Vereinigh Stael werke. A. G.*) の成立に依り其組織に大變動を生ぜり。スチンネス企業團は其包含する製鐵、石炭より電氣工業、褐炭、自動車、石油、製絲、出版、船舶、保險、銀行業に及べるを以て同企業の解體は獨り鑛山業のみならず各方面の企業組織に變動を齎らせり。スチンネス企業團はフーゴースチンネス個人企業團とシーメンス・ライン・コルベ、シュツケルト・ユニオンの2部より成りしが1925年6月フーゴースチンネス個人企業團破綻を生じたるを以て、シーメンス・ライン・コルベ、シュツケルト・ユニオンは同企業團より分離せり。同個人企業團は故フーゴースチンネスの2子、エドモンド・スチンネス、フーゴースチンネスの間に分割せられたるも、何れも之を維持する事能はず救濟銀行團の援助に依り漸次各工場、會社所有株式は國內及國外に賣却せられ、マチャス・スチンネス炭坑のみスチンネス家に保有せらるゝ有様なり。同企業團精算の狀況を略記すれば左の如し。

先づ其所有せるノルドステルン株式は和蘭に、ドイツ、ルクセンブルヒの株式は英國に賣却しシーメンスの株式はシーメンス家にて買戻せり。ライン・ウエストフアリア電氣工場は普魯西國庫の所有に歸し、中部獨逸に於ける褐炭坑及石油工場はアエリン企業團の獲得する處となれり、其の製絲事業は英國インペレスク企業團の手に落ち銀行 (伯林商事會社、バルコー銀行團) の株式は該諸銀行取締役會に參與せる會社の手に移れり。

漢堡に於ける輸出商會は、アルノルド・オットー・マイヤー商會に讓渡し船舶部はアウストラール・

コスモス・ラインに併合せられたり。

スチンネス企業團に類似の解體を見たるはローtringen鑛山株式會社企業團なり。同企業團もインフレーション時代に成立せるものにして石炭業より漸次發展し製鐵、冶金、製造工業（機械、造船）迄包擁するに至りしが販路の擴張充分ならず解體の止なきに至れり。其他右同様の改造の運命に遭遇せるものにスツム企業團、ロムバツハー鑛鑛企業團等あり。

1926年獨逸鑛山界に於ける最重要なる出來事は合同鋼鐵會社の成立なり。前述の如くスチンネス個人企業團の消滅と共にスチンネス企業團より分離せるシーメンス・ライン・エルベ・シュツケルト・ユニオンはシーメンスシュツケル會社、ドイツルクセンブルヒ會社、ゲルセン・キルヘン會社、ポフォーム組合の4大會社より成れるものにして其中ドイツ・ルクセンブルヒ、ゲルセン・キルヘン、ポフォームの3大石炭製鐵會社は更にライン・エルベ・ユニオンを構成せしがスチンネス企業團消滅の結果右諸會社は新組織を構成するの自由を得。製鐵業に於ける生産の分配、加工上に於ける技術の配當、價格決定等に関し統制を嚴重ならしむる爲め大組織の必要を感じ他の同種會社を勧誘し1926年1月14日ジュツセルドルフに合同鋼鐵會社を設立せり。參加會社次の如し。ドイツ・ルクセンブルグ、ゲルゼン・ギルヘン、チツセン組 (Thqssen) ポフォーム組合、ラインシュタール (デュ、イス、ブルグマイデリツヒ)(Rheinische Stahl Werke Phoenix A. G. Fuer Bergbau und Huettenbetrisb)、フェニツクス鑛山鑛鑛會社 (チュツセルドルフ)(Phoenix A.G.)、チプセン・ウント・ウイセネル合同製鐵會社 (ケルン)(Bereinigte Stahl Werke von der Zyssen u Wissen Esenhuetten. A.G.)、シャルロツテル鑛鑛場 (Charlattenhuete A.G.)、ベルギツシエスタールインドウストリー (Bergixhe Stahlindustrie、ストム組 (Summ-Gruppe)、ロムバツハー鑛鑛場 (Rombacher Huette)

同會社は資本8億萬馬克にして鋼鐵に就て製鐵組合總生産額中の47%の生産を分擔す。即ち製鐵組合に関與せる各會社の總生産額1,500萬噸中合同鋼鐵會社の分前740萬噸なり石炭に就てはライン・ウエストフアリヤコレーンシンデケートの總生産額1億6,200萬噸中合同鋼鐵會社は3,480萬噸の生産を分擔す。即ち其生産額の22%を生産する譯なり。

上部シレジャ地方は一般投票の結果獨堡兩國に分割せられたる爲め其結合せし工場は連絡を失ひ兩地域内に於ける工場は各新結合を試むるに至れり。

上部シレジャ鐵工業會社及オーバーベダルフ、ドンネルスコルクス鑛鑛團は中部獨逸に於けるリンケ・ホフマンラオホ・ハンコー企業團と結合せり。同企業團は機關車及車輛製造の企業團にして同時に多數の製鐵場を有せり。然るに昨年秋同企業團は經營困難に陥り其中の製鐵場は分離し新に設立せられたる中部獨逸鋼鐵所に合併せられたり。中部獨逸鋼鐵所は5,000萬馬克の資本金にて設立せられ其中3,300萬馬克はリンチホフマンの出資にして殘餘は合同鋼鐵會社の出資に掛かる。其結果合同鋼鐵會社は上部シレジャ製鐵業に関與するに至れり。

其他今年始めクレフェルド、デュイスブルグ及デュツセルドルフに於ける7箇の鋼鐵會社は合同鋼

鐵會社を設立せり。資本金 3,000 萬馬克にして合同鋼鐵會社は其株式の 1/3 を所有す。

石油工業：—石油工業に於ては 1925 年 10 月 1 日石油業に於ける 2 大會社たる獨逸石油會社及獨逸地油會社合同し其際リュートガー工場を併合せり。合同會社の株式は獨逸地油會社及リュートガー工場之を保持し石油採掘には獨逸石油會社擔任せり。其販賣部はオレツクス獨逸石油會社と融合するに至れり。

石油業及褐炭工業もスチンネス企業團崩壞の影響を蒙れり。即ち同企業團の一分子たりしリーベツク鑛山、石油株式會社は分裂して其中の褐炭部はリーベツク鑛山株式會社の舊名に復し且染料工業會社と利害共同契約を締結し該會社の一部と成れり。石油工場及同販賣部は獨逸ガソリン會社に合併せり。同會社は更に染料工業會社及スタンダードオイル、ローヤル・ダツチ組關與せり。ローヤルダツチ組は漢堡ステルン・ゾンネボルン石油工場を合併し其販路を擴張せり。

加里工業：—省略

冶金及機械工業：—冶金工業に於ては伯林及ウエストフアリア集中の中心點と成れり。伯林に於てはヒルシュ銅眞鍮工場とアイスレーベンに於けるマンスフェルド工場合同あり。ウエトコアリアに於てはヘツクマンセルヴェ、カノルベルグの大工場の融合ありたり。

インクレーション時代に成立せる企業團にして貨幣安定後破産、解體又は他に併合せられたるものはバルコー、レオスクラルツメタルム、ライン商事、ミハヘル、シーレ、ブルフザラー等の企業團なり。機械工業に於ける主要なる會社は獨逸機械製造株式會社にして 1924 年以來ライン、ルール地方に於ける多くの機械製造會社を併合せり。

製粉機製造業界に於ては數年來製粉機製造工業會社以下 5 大會社存し其間密接なる連絡ありしが 1925 年末同 5 大會社は融合して 1 個の會社と成れり。

車輛製造業に於ては 2 大企業合同を見たり。即ちダイムラー自動車會社、ベンツウントコンパニーの融合及シャプロ團の擴張是なり。自動車製造業に於てはアーイーゲー及シーメンス・シュツケルト間に其各自動車製造會社、ナチオーナル・オートモゼル會社及プロトスの併合を見たり。

電氣技術界に於てはアー・イー・ゲー及シーメンス・ハルスク 2 大企業團對立し益々擴張の勢を示すシーメンス企業團のスチンネス企業團より分離せるは前述の如し。

化學工業：—化學工業界に於ては特記すべきはイーゲ染料工業株式會社の擴張なり。同會社は利害共同契約に依り形成せらるゝ企業團にして 1925 年 6 月更にバーデン・アエリン・ソーダ工場、ヘツクスター染料工場、エルバーフェルダール染料工場其他を合併せり。其後イーゲー染料會社は石油、人造絹絲、肥料工業の 3 方面に其事業を擴張せり石油業方面に於ては前述の如くスチンネス企業團の部たりしリーベク褐炭坑を獲得せる外、石油及石炭利用會社の株式を獲得し石炭分解業に於ける指導的地位を占むるに至れり。

人造絹絲—肥料工業—膠工業—燐寸工業—製絲工業—織物工業—毛織物業—リノリウム工業—砂糖—煙草—以上

省略

船舶業及航空業：一船舶業に於ては漢堡のハンブルグアメリカ・ライン及ブレーメンのノルド・ドイツカー・ロイド相對立す。1925年末ノルド・ドイツカーロイドはローランドライン、ブレーメンに於けるハンブルグ・アフリカ・ライン、リコーベツクに於けるホルン汽船會社の3大會社(資本總額2,000萬馬克、船舶15萬艘)を併合せり。資本金1億2,500萬馬克、船舶總艘數61萬3,000艘、ハンブルグ・アメリカ・ラインは1926年10月ドイツ・オーストラリア・コスモス・ラインを併合せる結果曩にコスモスが買収せるフーゴー・スチンネス・ラインもハンブルグ・アメリカ・ラインの所有に歸し獨逸船舶業に於ける指導的地位を占むるに至れり。其資本1億3,000萬馬克、所有船舶總艘數87萬3,000艘。

航空業に於ては獨逸に於ける2大飛行機製造會社たるアエロ・ロイド及ユンカー合同しドイツluft・ハンサ會社を設立せり。中央政府及各聯邦政府其株式に參與せり。

造船業：一造船業に於ても漢堡ブレーメン兩市集中運動の中心となれり。1926年末ブレーメンに於てシュレーダー銀行の後援に依りウエーゼル會社デクレンボルクウントブレーメンブルガン工場及セテツテイナールブルカンの漢堡工場合同し獨逸船舶及機械建造會社を組織せり。同會社はハンブルグアメリカライン、アーエーゲー及ハエエル・ゲーテ・ホクタンクスフユツテの3大企業團の出資にて成立せる獨逸造船所に對し合同を提議せるも獨逸造船所は之を拒絶し却て1927年1月ウエツツエル及フライターグのライエルス・テীগ工場を併合せり而してライエルライグは曩にグローム・ウント・ウオス會社と長期の事業契約を結び居るが該會社がドイツエウルフト團に加はる事なかる可しと稱せらる。

保險業：一省略。

歐洲ワイヤーロツド協定成立 (6月7日著在漢堡帝國總領事來栖三郎電報) 前週リエージュに於て獨、佛、白及ルクサンブルヒのワイヤーロツド製造業者間に生産及價格協定成立、來る6月10日調印の筈、其割當は、獨100萬噸、佛40萬噸、白27萬噸、ルクサンブルヒ12萬噸、輸出價格は各輸出港 F.O.B. 每噸5磅10志を下るべからざる事とす。

歐洲粗鋼カルテル成績 (5月17日附在漢堡、來栖總領事報告) 客年10月本カルテル創立當時より本年3月に至る半年間に於ける業務成績に關し Deutsche Bergwerks-Zeitung No. 13 の記載する所に依れば本カルテル原參加國なる獨、佛、白、ルクセンブルグ及ザール地域の右半年に於ける生産總量1,589萬853噸にして協定割當量なる1,429萬500噸に比し生産超過160萬353噸之を各國別に見るに其割當量に比し生産超過は獨逸151萬1,020噸、白耳義20萬1,211噸、ザール地域10萬7,113噸生産不足に佛蘭西23萬5,117噸、ルクセンブルグ3,874噸にして右の結果定款第1條に依り生産量に對する積立金(每噸1弗)計1,589萬853弗、同6條に依り生産過剰量に對する違約金(每噸4弗)計735萬7,376弗、合計2,324萬8,179弗、右の中獨逸の負擔は1,373萬7,679弗内譯生産量に對す

る積立金 769 萬 3,599 弗、生産過剩違約金 604 萬 4,080 弗なり。

尙定款第 2 條及第 8 條に依る拂戻金は計 2,777 萬 147 弗、内獨逸 982 萬 1,239 弗にして差引獨逸は生産量毎 2 馬克 13 片を徴收せられ佛蘭西は 3 馬克 37 片の補償を得たる次第なり。

之れを表示すれば次の如し。

	獨逸	佛蘭西	白耳義	ルクゼンブルク	ザール地域
1. 生産量(噸)	7,693,599	4,202,200	1,882,505	1,180,526	932,023
2. 協定制當額(噸)	6,182,579	4,437,317	1,661,294	1,184,400	824,910
3. 同上(%)	43,176	31,181	2,560	8,301	5,782
4. 割當額に對する生産過剩(噸)	1,511,020	—	221,211	—	107,113
5. 同上不足(噸)	—	235,117	—	3,874	—
6. 共同會計に對する拂込金(弗)	13,737,679	4,202,200	2,767,349	1,180,526	1,360,475
内					
{ 甲生産量毎噸 1 弗 積立金(第一條)(弗)	7,693,599	4,202,200	1,882,505	1,180,526	932,023
{ 乙生産過剩量毎噸 4 弗 (第六條)(弗)	6,044,080	—	884,844	—	428,453
生産不足毎噸補償金 2 弗(第七條)	—	470,334	—	7,748	—
拂戻金(第二條第八條)	9,831,239	7,099,960	2,632,228	1,890,150	1,316,570
生産量毎噸					
{ 損	2,121	—	30	—	20
{ 益	—	337	—	255	—

尙本年 1 月に入り中歐諸國即ち致須國、壤地利及洪牙利の 3 國本カルテルに参加し其生産割當額は 1 月乃至 3 月に對しては年額 217 萬 9,210 噸、4 月乃至 6 月に對しては 229 萬 6,772 噸の割合を得たる結果カルテル全部の生産割當總額は 1 月乃至 3 月に對しては 2,196 萬 6,210 噸なりしも 4 月乃至 6 月に對しては生産制限を解除したる爲め年額 3,158 萬 3,772 噸の割合となれり。

テリベス鐵工場建設 (5月13日附在ノヴオシビルスク緒方領事報告) テリベス地方に多量に産する鐵鑛及石炭を利用し、一大鐵工場を建設し當地方に於ける鐵の需要を満たすべしとなす案は既に地方執行委員會乃至地方計畫局に於て其必要を力説されて居り、西伯利地方將來の工業化中にも含まれて居るが莫斯科 12 日發電報に依れば今回露西亞ソヴィエト共和國經濟評議委員會はテリベスに鐵工場建設の必要を認め 1927—28 年度より工事に着手し 5 箇年にて完了せしむる事を決議した。新鐵工場の年産額は 2,000 萬布度と計畫されて居る。工場の設計其他の爲 25 萬留を支出し又本年度中に於て準備工事、即ち製材所、住宅、道路等に對し 100 萬留を支出する必要ありと決議して居る。

右經濟評議委員會の決議は直に労働國防委員會の審議に回附された。

製鐵行政改善案 製鋼懇話會は 20 日正午から丸の内工業クラブで次記商工審議會の諮問事項について協議會を開催

1. 行政系統を整理し手續を簡便にし事務の敏活を計つて生産費の低下を計るにつき事業上の不便又は支障の點並びにその改善策如何(産業行政改善に關する特別委員長大河内正敏氏諮問)

これについては質問の意味不明であるから答申を見合したがよいといふ強硬意見も出たが結局答申す

ることになり、製鐵獎勵法の實施に關する改善事項や、その他主として監督官廳の弊風たる繁文縟禮打破に關して細目に亘る希望が出たが行政系統改善に關する根本策としては大體次の三案があげられ追つて 25 日協議を續行して具體的な答申を作製することになつた。

- 1、 商工省内に新に鐵鋼局を設けて製鐵行政の統一を計ること
- 2、 八幡製鐵所長官を親任待遇となしこれをして一般製鐵行政を管掌させること
- 3、 八幡製鐵所長官は現状の儘となし、たゞこれが下に若干民選評議員を置いて一般製鐵行政に參與させること（中外商業）

八幡製鐵九月渡し鋼材價值發表表（單位圓）

丸 鋼 1/4"	92	平 鋼	88	鋼 板 3.2mm 以上	104
同 5/16"	91	山 形(小型もの)	88	同 2.9mm 以上	107
同 3/8"—7/16"	90	同 (大型もの)	90	同 2.3mm 以上	110
同 1/2"	89	チャンネル	100	同 1.6mm 以上	114
同 2"—3"	87	ザヨイスト	90	ワイヤーロッド	86
角 鋼 1/2"	88	鋼板 4.5mm 以上	100		

以上の如く 1 圓方の値上げを見たのは最近外註品が漸騰歩調にある事爲替が低落した事内地在荷薄等に基くものである。

四月中鐵鋼生産高 商工省調査發表に依れば 4 月中本邦に於ける鐵鋼の生産高は次の通りにして鉄鐵は滿鮮を含み本溪湖を除けり（單位噸）。

	4 月中	3 月中	増 減
銑 鐵	108,298	102,827	+ 5,471
普 通 鋼	141,807	153,224	- 11,417
普通鋼壓延材	112,745	122,492	- 9,747

四月中本邦重要鑛物産出額 商工省調査に依れば本年 4 月中に於て内地重要鑛山の産額は前年同月に比すれば金 13.9%、銀 2.9%、鐵 36.2%、石炭 2%、硫黃 30.5% の各増加にして、銅 2.9% 石油 12% の各減産を示せり。以上を表示せば次の如し。

	本年 4 月中	本年累計	前年同期累計
金 (匁)	215,654	803,599	744,533
銀 (匁)	3,111,945	11,025,706	11,435,002
銅 (斤)	9,003,690	32,809,468	34,195,213
鐵 (噸)	8,690	29,891	27,437
石 炭 (噸)	2,506,289	10,159,733	9,717,214
石 油 (石)	111,192	441,301	498,904
硫 黃 (噸)	4,797	18,333	13,178